

重点施策	1 こども・若者への切れ目のない支援
主な課題	●こども・若者が抱える困難や課題の複合的な要因への支援の必要性 ●こども・若者自身が意見を表明できる機会を積極的に設け、意見をいかす取組の必要性
目標	全てのこども・若者の幸せを支えます。
評価点	3.0

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
包括的な相談支援体制の 更なる充実	●こども総合相談窓口(米子市こども家庭センター)での子育て相談の充実 母子保健と児童福祉の両方の視点で相談に応じ、相談内容に適した専門職等に繋げる など、関係機関とも連携し、妊娠期から学齢期まで切れ目なく支援を行った。 【相談】586件 【研修会】1回	-	-	-	-	B	3	・引き続き、こども総合相談窓口の周知を進めるとともに、関係機関との連携深化を図り、相談を充実させていく。 ・子育て支援に関する市民向けの研修会を年1回開催する。	こども相談課
こども・若者の思いや 意見を聴き、 いかすための取組	●「こどもの意見」Webフォームの設置 ●こどもの意見の聴取及び反映 ・よなごっこポータルの改善(サイトのレイアウト、掲載情報の追加) ・公民館の環境改善(wi-fi設置) ●こども達との意見交換会の実施 ・米子北高等学校の生徒との意見交換会(よなごっこポータル、こどもの居場所) ・米子工業高等専門学校の生徒と米子市少年指導委員との意見交換会 (自転車のヘルメット着用について、休日の過ごし方、将来の進路について等)	-	-	-	-	B	3	引き続き、多様な声を施策に反映させる工夫と意見表明の機会の充実を図る。	こども政策課
分かりやすい ホームページ等による 情報発信	●『よなごっこポータル』の設置 【アクセス数】R7:3460件 ●よなごっこポータルの周知活動の実施 ・小中学校全生徒へ名刺サイズのカード配布 ・ふるさと教育、子ども会等での紹介 ●よなごっこポータルを活用した情報発信 ・こども食堂の開所情報、不審者情報、こども向けイベント等の情報発信	-	-	-	-	B	3	アクセス数の推移を分析し、よりこども・若者の視点に立った分かりやすい情報発信に努める。	こども政策課
権利の普及啓発 ・人権教育の推進	●こどもに関連する各種研修会の実施 ・小学校フィールドワーク(6年生) 中央隣保館、ふれあいの里(米子市人権情報センター) 【参加者数】291人(7校) ・小学校ゲストティーチャー(6年生) 1 市役所の取り組み 2 市民意識調査から見えてくるもの 3 小地域懇談会の取組み 4 世界人権宣言すごろく から選択 【参加者数】397人(7校) ・第51回米子市人権・同和教育研究集会 分科会 演 題:性の多様性から『じぶん』について考える ～誰もが排除されない社会をめざして子どもたちとの出会いからみえてきたこと～ 【参加者数】51人 ・米子市人権・同和教育推進協議会 就学前部会 ・保護者対象研修 演題:明日からの子育てを前向きにするために～教育者、当事者から伝えたいこと 【参加者数】83人 ・保育園・幼稚園等職員対象研修 演題:一人ひとりの発達をふまえた子ども理解と支援を行うために考えたいこと 【参加者数】63人	-	-	-	-	B	3	・「人権尊重のまち米子市をつくる条例」(R8.4.1施行)に基づき、人権侵害のない誰もが人権を尊重し合うまちづくりをより一層推進するため、人権教育地域懇談会、各種研修会、講演会等での条例の趣旨の周知、啓発を行う。 ・人権に関する市民の理解を深めるため、開催する会の内容の充実を図る。	人権政策課

重点施策	2 妊産婦・乳幼児への切れ目のない保健施策の充実
主な課題	核家族化の進行や地域とのつながりの希薄化、生活スタイルの多様化など、家庭環境や子育て環境の変化による困りごとや悩みを抱える保護者への支援の必要性
目標	妊産婦が必要な支援を受けられるようにし、乳幼児の健康と安全を守ります。
評価点	3.1

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
マタニティー &ベビー相談の充実	●こども総合相談窓口(米子市こども家庭センター)での子育て相談の充実<<再掲>> 母子保健と児童福祉の両方の視点で相談に応じ、相談内容に適した専門職等に繋げるなど、関係機関とも連携し、妊娠期から学齢期まで切れ目なく支援を行った。 【相談】586件 【研修会】1回	-	-	-	-	B	3	・引き続き、こども総合相談窓口の周知を進めるとともに、関係機関との連携深化を図り、相談を充実させていく。 ・子育て支援に関する市民向けの研修会を年1回開催する。	こども相談課
	●タムタムスクールの開催 乳幼児のいる家庭を対象にした子育て・親育ち講座の開催・乳幼児期の子育てに必要な情報提供、親同士の情報交換等、子育て支援を目的とした講座(タムタムスクール)を開設し、保護者の家庭教育への支援をするとともに参加した保護者の子育てに関する相談に応じた。 【実施回数】12回 【参加人数】延べ358名(うち子どもは174名)	-	-	-	-	B	3	・参加者の評価は高く、家庭教育の重要性等を伝えることができた。 ・少数ではあるが、夫婦で参加される方もある一方で、全体として男性の参加者が少なく、男性の参加しやすい工夫を引き続き検討する必要がある。	こども政策課
乳幼児健康診査の充実	●乳幼児健康診査の充実 ・各種健康診査受診者に対して、保護者の負担感等を確認し、育児相談や子育てサービスの紹介を行うとともに、受診率向上に向けた取組を行った。 ・健診未受診者に対しては、必要に応じて関係機関とも連携しながら、状況把握に努めている。 【指標】 ①乳幼児健診受診率(6か月児健診) ②乳幼児健診受診率(1歳6か月児健診) ③乳幼児健診受診率(3歳児健診)	-	①100% ②100% ③100%	-	①98.5% ②99.1% ③98.9%	B	3	引き続き、集団健診において、多職種による相談や助言により保護者の育児負担感や不安感の軽減及び未受診者へのアプローチに努めていく。	こども相談課
赤ちゃん訪問事業の充実	●赤ちゃん訪問事業の実施 出生した乳児の家庭を保健師等が訪問し子育て支援に関する情報提供、養育環境の把握、子育てについての相談を行った。拒否や長期入院等で訪問できなかった場合でも、電話や面談で全て把握している。 【指標】訪問数	1,014人	1,028人	1,048人	942人	B	3	引き続き、乳児全戸訪問を確実に行ない、保護者の不安軽減に努めていく。	こども相談課
産後ケア事業の充実	●産後ケア事業の実施 ・R7年度より、妊娠32週以降の電子申請を可能とし、産後ケア事業を利用しやすい環境を整えた。 ・また、R7年8月より産後ケア事業訪問型(アウトリーチ型)を開始し、外出が困難な方も支援が受けられるような体制を整え、支援の充実に努めた。 【指標】延利用者数	1,329人	1,200人	1,000人	2,178人	A	4	引き続き、産後ケア事業の充実を図り、育児不安の軽減に努めていく。	こども相談課
在宅育児支援の充実	●情報提供や保護者間の交流による子育て不安の解消 すすく相談会や子育て支援センターでの育児相談などにより子どもの発達や家庭状況に応じたきめ細かな助言を行い、保護者の育児不安の軽減や家庭での実践につながるよう支援した。	-	-	-	-	B	3	引き続き、子育て支援センターでの育児相談会、すすく相談会の事業において、保護者に正しい知識の提供と個別支援を行うとともに、参加しやすい環境づくりや交流の機会の充実を図り、育児不安の解消に努めていく。	こども相談課
	●親子で参加できるイベントや講習会の開催による子育ての負担軽減 子育て支援センターでの講話や離乳食講習会、のびのび親子教室の実施により、保護者が子育てに関する知識を習得するとともに、参加者同士の交流の機会を提供することで、孤立感の軽減や子育て負担の軽減につながるよう支援した。	-	-	-	-	B	3	引き続き、子育て支援センターでの育児相談会、離乳食講習会、のびのび親子教室を実施し、子どもの成長に応じた適切な情報提供を行うとともに、親子で安心して参加できる機会の充実を図り、子育て負担の軽減に努めていく。	こども相談課
	●子育て支援センターの充実 子育てひろば支援センターの土曜開所を開始し、平日利用できない家庭も利用できる体制づくりに取り組んだ。 【指標】延利用者数	34,531人	34,257人	33,258人	33,344人	B	3	・R8年度はよどえ子育て支援センターでも土曜開所を開始し、更なる支援の充実を図っていく。 ・今後も土曜開所のセンターの拡大等、市民が利用しやすい体制の充実を図る。	こども施設課

重点施策	3 保育士の確保、保育の質の向上、保育環境及び子育て支援の充実
主な課題	●様々な保育ニーズに応えるための更なる保育士の確保及びスキルの向上 ●子育て支援の拠点や、特別な支援が必要なこどもへの対応に必要な、保育環境の整備の必要性
目標	保育士の確保、保育の質の向上、保育環境及び子育て支援の充実に努めます。
評価点	3.0

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
様々な関係機関等と連携した保育士確保の施策の展開	●様々な関係機関等と連携した保育士確保の施策の展開 ・ハローワーク米子や鳥取県保育所・保育士支援センターと協力し、就職活動及び魅力発信に係るイベントを開催した。イベントに参加し、実際に採用につながった事業者もあり、保育現場で働く人材確保に貢献した。 ・広報を用いた魅力発信並びに保育士の就労環境改善のための国・県と連携した処遇改善並びにICT化及び職員配置基準への補助等を行った。 ・保育給付費請求システムを導入し、保育事務の負担軽減を行った。 【開催数】 3回	-	-	-	-	B	3	引き続きイベントの開催や魅力発信に努めることで、保育現場で働く人材確保に努めていくとともに、国や県と連携した補助事業等により、保育現場の負担を軽減し、保育士等が働きやすい職場環境を整備することで、保育士不足の解消につなげていく。	こども政策課
研修機会の充実による保育の質の向上	●研修機会の充実による保育の質の向上 ・障がい加配保育士等対象の米子市主催の研修として「LD等専門員」による研修と「児童発達支援センター」の発達支援保育サポーターによる研修を実施した。 【参加者数】105名	-	-	-	-	B	3	今後も引き続き各種研修の機会を設けることで、保育の質の向上に努めていく。	こども施設課
保育施設で医療的ケア児や障がい児を受け入れるための体制の構築	●医療的ケア児や障害児が希望する園に入園できるよう調整の実施 ・医療的ケア児・障がい児の円滑な受け入れに向けた調整を行った。	-	-	-	-	B	3	引き続き保護者が希望する園に入所できるよう調整を行う。	こども支援課・こども政策課
公立保育所の統合・建て替えによる保育環境や子育て支援の充実	●公立保育所の統合・建て替えによる保育環境及び地域子育て支援の充実 よなごっこ未来計画に定める方向性に沿って、公立保育所の統合建て替えを進めた。 <東こども園の開園> 令和6年度に移設建て替えにより新園舎が完成した東保育園について、令和7年4月からは幼保連携型認定こども園として運営を開始した。隣接する啓成小学校との交流を更に深め、幼保小連携の推進を図った。 <西保育園・ねむの木保育園の統合建て替え> 予定どおり新園舎建設工事に着手し、事業を順調に進めることができた。 <崎津保育園・小鳩保育園の統合建て替え> 一体的に整備を進めている義務教育学校と併せて、造成工事及び建築実施設計を前倒しして実施する等、事業を順調に進めることができた。 <こたか保育園・あがた保育園の統合建て替え> 地元からの意見聴取などを行いながら、基本構想の策定に向けた検討を進めた。 <富益保育園・彦名保育園の方向性の検討> 近隣の保育動向等の情報収集を行った。	-	-	-	-	B	3	・引き続き、方向性に沿って公立保育所の統合建て替えを進め、保育環境及び地域子育て支援の充実に図っていく。 ・西保育園・ねむの木保育園の統合建て替えについては、R8年度中の新園舎完成を予定しており、新園舎完成後は、R9年4月の認定こども園としての開園に向け、移転作業等を行う。 ・崎津保育園・小鳩保育園の統合建て替えについては、引き続き造成工事及び建築実施設計の進捗を図り、その後、園舎の建築工事へと進めていく。 ・こたか保育園・あがた保育園の統合建て替えについては、基本構想を策定した後、基本設計等の事業に着手していく。 ・富益保育園・彦名保育園については、保育を取り巻く動向を踏まえ、在り方を検討していく。	こども政策課

重点施策	4 幼稚園・保育所等と小学校との円滑な接続の推進
主な課題	小1プロブレムを解消するための幼児教育から小学校教育への円滑な接続の取組の更なる推進
目標	切れ目ない支援のため幼稚園・保育所等と小学校との円滑な接続を推進します。
評価点	3.3

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
円滑な接続を推進するためのカリキュラム等の充実	●架け橋期のカリキュラムの作成・活用 モデル校区での実践をもとに「米子市版架け橋プログラムサポートブック」の作成に取り組んだ。 【指標】架け橋期のカリキュラム作成校区	3校	23校	7校	7校	B	3	引き続き、架け橋期のカリキュラムを作成する学校を増やしていく。校区によって取組状況に差があるので、各校区の現状を把握し、現状に応じた取組を推進していく。	こども政策課、 こども施設課、 こども相談課、 学校教育課
研修等の様々な機会を通じた幼稚園、保育所等と小学校の職員同士での相互理解の促進	●幼保小合同研修会、合同連絡会等の開催 幼保小合同研修会、合同連絡会等を開催して、接続カリキュラムから架け橋期のカリキュラムへの移行を周知し、モデル校区での好事例を発信することで連携・接続の意識を高めていった 【指標】幼保小合同研修会や情報交換会の開催回数	各1回	各1回	各1回	各1回	B	3	引き続き各種研修会等を通じて、連携・接続の意識を高めていった	こども政策課、 こども施設課、 こども相談課、 学校教育課
1年生アドバイザーの訪問での助言、サポートによる就学への円滑な移行	●1年生アドバイザーによる保育施設・小学校への訪問 小学校への訪問では、1年生学級担任等に学級経営や校内支援体制等の助言を行った。園への訪問では、年長児の観察や支援を要する園児があった場合、学校見学の実施を助言する等、園と学校との連携支援を行った。 【指標】訪問回数 ①小学校訪問 ②保育施設訪問	①126回 ②66回	-	-	①165回 ②76回	B	3	1年生アドバイザー事業を実施していくことによって、園と小学校の連携に主体的に取り組む園、学校が増えてきた。次年度以降は、小学校、園への個別の訪問以外にも、オープン保育園や小学校区の幼保小連携の会等へも参加し、園と学校の連携がより進むよう取り組む。	こども政策課、 こども施設課、 こども相談課、 学校教育課
全小学校でのオープンスクール(就学前の学校体験)の開催による支援	●オープンスクールの開催 オープンスクールについて、申込方法の変更や開催内容の工夫を行うとともに、園や関係機関等と連携しながら積極的な参加を呼びかけた。 【指標】年長園児数に対する参加割合	86%	100%	100%	90.0%	A	4	多くの年長児の学校生活への不安を軽減していくために、さらに参加率が向上するよう取り組んでいく。オープンスクールの活動内容が工夫され、年長児、保護者にとって魅力的なものになるよう小学校に働きかけを行う。	こども政策課、 こども施設課、 こども相談課、 学校教育課
	【成果指標】 オープンスクール参加者アンケート参加したこども・保護者の「小学校入学への不安が和らいだ・楽しになった」と答える割合 ①小学校が楽しになったと答えた割合 ②小学校入学への不安が減ったと答えた割合	①91.4% ②90.6%	-	-	①93.1% ②87.0%				

重点施策	5 こどもの居場所の拡充
主な課題	●天候に左右されないこどもの居場所づくりの必要性の向上 ●働きながら子育てをする家庭を支援するため、地域の方々の協力によるこどもの居場所の確保
目標	こどもの居場所の拡充に努めます。
評価点	3.0

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
放課後子ども教室やこども食堂などの様々なこどもの居場所の拡充に向けた既存施設等の活用 の推進や、待機児童の解消に向けたなかよし学級の体制整備	●放課後等におけるこどもの居場所づくり ・公民館等を活用し、子どもが日常的に立ち寄れる風土の醸成を図る「公民館等を活用したこどもの居場所づくり事業」をモデル的に実施した。 ・事業の実施において、民間団体との連携や地域資源の活用に取り組み、地域全体で子どもの成長を支える基盤の構築に一定程度寄与した。 ・学校や地域と連携した「放課後子ども教室」(1地区)を実施し、その内容の充実に努めた。	-	-	-	-	B	3	・今後は、民間団体との連携強化や既存施設の有効活用、地域人材の育成をさらに重視し、体験機会の創出、多世代交流や学びの共有を促進する居場所づくりを構築・展開していく。 ・地域学校協働活動の一環として「放課後子ども教室」を推進する。	こども政策課、こども施設課
	●既存の施設などを活用したこどもの居場所の拡充 ・学校や地域と連携した「放課後子ども教室」(1地区)を実施し、その内容の充実に努めた。 ・親子でゆったりとまんがを楽しめる全天候型の居場所づくりとして「まんが図書館活用事業」を実施した。	-	-	-	-	B	3	・「まんが図書館活用事業」に係るアンケートの結果等からは、事業に対する高い満足度が示されるとともに、様々な体験ができる場所が求められていることなどが分かり、子ども及び親子の居場所についてのニーズの把握・分析につながった。 ・引き続きニーズ把握に努め、子ども及び親子の居場所の充実に向けて取り組む。	こども政策課
	●こども食堂等への支援 ・民間団体と連携し、県下一斉フードドライブへの参加やフードバンクポストの増設により、食材確保体制を拡充した。 ・食材の提供や広報活動の支援により、こどもやその保護者の交流の場となる子ども食堂等の円滑な活動に寄与した。 ・こども食堂関係者との意見交換会を通じて市の方針共有や要望把握を行い、現状分析と課題の明確化を図った。 【指標】食料提供実績	760kg	1,000kg	-	930kg	B	3	・引き続き、こども食堂等に対する広報活動及び食材確保の支援等を行う。 ・鳥取県や関係団体と連携して定期的に意見交換会を開催し、現状分析や課題の明確化に努める。	こども政策課
	●待機児童解消に向けたなかよし学級の体制整備 なかよし学級の待機児童の減少及び運営の健全化を図るため、啓成なかよし学級の複数単位化と五千石なかよし学級の公設民営化について、準備を進めた。	-	-	-	-	B	3	特に1, 2年生の待機児童が発生する校区については、なかよし学級の受入れ人数を拡充できるよう検討を進めるとともに、放課後子ども教室など多様な居場所の確保に努めていく。	こども施設課
米子市児童文化センターの利用促進	●米子市児童文化センターの利用促進 指定管理者による自主事業等の取組により、利用者数前年増となった。 【指標】利用者数	160,814人	190,000人	-	176,683人	B	3	・施設や事業の周知のため広報等にさらに力を入れることで、利用促進を図る。 ・今後のリニューアルに向けて基本計画を策定する。	こども施設課

重点施策	6 地域全体でこどもの育ちを支える取組の推進
主な課題	●スマートフォンやインターネットの普及によるこどもの健全な成長への影響 ●こどもを守り、安心・安全な環境を確保し、関係機関との連携による見守りや育成の必要性
目標	体験・交流活動の充実と、こどもの安全な環境の確保を図ることで、地域全体でこどもの育ちを支えます。
評価点	3.3

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
米子市のこども会の活動支援	● <u>子ども会の活動支援</u> 米子市子ども会連合会及び米子市子ども会ジュニアリーダーズクラブの事務局を担い、事業の実施支援と研修機会の充実に努めた。 子ども会の継続及び活性化に向けた相談対応を行った。 【市内のこども会への補助金・活動支援の実施件数】 【加入単位子ども会総数】(R6) 263団体 (R7) 245団体	-	-	-	-	B	3	引き続き米子市子ども会連合会や米子市ジュニアリーダーズクラブの事務局を担い、子どもたちが地域活動などに主体的に参加できる環境づくりを推進していく。 また、各子ども会が抱える課題について、市、公民館、地域の育成者、関係団体等が連携して解決に向けて取り組み、子ども会活動の持続、活性化に努める。	こども政策課
米子市少年育成センター及び少年指導委員の活動の推進	● <u>米子市少年育成センターの活動推進</u> ・少年指導委員を223名委嘱し、街頭及び巡回指導、青色防犯パトロールによる巡回により直接少年の指導に当たった。 ・少年指導委員代表者会を毎月開催し、地区少年指導委員、学校、教育委員会、米子警察署等との連携を図った。 ・小学校を訪問し、不審者対応、交通安全、防災等に対する啓発活動を行った。 【指標】 ①小学校訪問による啓発活動(不審者対応、交通安全、防災等)を実施した小学校の数 ②青色防犯パトロールによる巡回指導の実施回数及び街頭指導の実施回数	①16校 ②117回	①23校 ②100回	-	①20校 ②126回	A	4	少年指導委員、学校、関係機関と連携し、街頭指導や啓発活動を通じて非行防止や環境浄化、交通安全、SNSのトラブル防止等に努め、子どもたちの健全育成を推進していく。	こども政策課
	● <u>青少年育成米子市民会議の活動推進</u> 総会及び運営委員会(3回)を開催した。 地区青少年育成会や青少年育成団体相互の意見交換会を実施するなどにより、各地区、各団体の活動の充実を図るとともに、青少年育成米子市民会議との連携を促進するよう努めた。 青少年育成鳥取県民会議と連携し、各種事業を実施した。	-	-	-	-	B	3	青少年育成団体との連携活動、子ども会活動への支援を通じて、子どもたちが地域活動や社会参加に関わる機会の充実を図るとともに、関係機関・団体との連携により、非行防止、青少年に有害な社会環境の浄化、市民への広報・啓発に組み込み、青少年の健全育成を推進していく。	こども政策課

重点施策	7 若者への就職・結婚支援
主な課題	●若年層の大都市圏への流出・地元企業や関係機関との連携によるUターン就職や地元定住化の促進の必要性 ●少子化を伴う米子市の人口減少・地域活力への影響の懸念
目標	就職支援や結婚支援をより一層推進し、若者の社会的な自立を支援します。
評価点	3.0

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
企業の求人活動支援と若者の就職活動支援 / 雇用対策関係機関との連携強化による就労支援の充実	● <u>職業情報発信事業</u> 関係機関と連携し、市外在住の学生や社会人を対象に、LINEを活用した就職関連情報等の発信を行った。 【指標】LINE登録者数	613	1,000	-	765	B	3	引き続き、LINEの登録者数を増加させるとともに、就職関連情報等の発信を行う。	商工課
	● <u>学生や若者向けの就職イベントの開催・参加</u> ・中学生対象企業見学バスツアー 将来的な地元就職を目的として、米子市内の中学生とその保護者を対象とした企業見学バスツアーを開催した。参加者は、市内の企業を2社訪問し、工場見学などを行った。 ・米子高専生のための進路研究セミナー 学生の就職活動やインターンシップ等への理解を深めることを目的として開催された、進路研究セミナーに出展し、米子市で働くことの魅力などをPRした。 【指標】開催・参加回数	5	1	1	2	B	3	市内企業や関係機関と連携し、企業見学バスツアーや職業体験イベントを実施することで、将来的な地元就職の促進を図る。	商工課
若者の交流の場の提供 / 就職・結婚支援に関する情報発信	● <u>婚活イベントなどによる出会いの場づくり</u> ・中海・宍道湖・大山圏域市長会の取組において、マッチングイベントを開催し、13組のカップリングが成立した。 ・鳥取県西部地域振興協議会の取組において、つながりづくりを主なテイストとしたマッチングイベントを開催し、のべ18件の連絡先交換が成立した。	-	-	-	-	B	3	・広域で実施する事業には一定の手応えを感じつつも、若い世代のリアルでのつながりづくりを一層促進する必要がある。 ・広域連携において実施する各事業を引き続き推進するとともに、R8年度新規事業として米子でのつながりづくり促進事業に取り組み、一層のリアルでの出会いの場づくりを図る。	総合政策課
	● <u>他団体との連携による結婚支援に関する情報発信</u> ・えんトリー(とっとり出会いサポートセンター)はじめ各団体と連携を図り、イベント等の情報発信(HP・SNS掲載、チラシの配架等)を行った。	-	-	-	-	B	3	・引き続き、関係市町村や事業者と連携を深め、地域での出会いへの機運醸成に取り組む。	総合政策課

重点施策	8 ニーズに応じた幼児期の教育・保育の供給量の適正確保及び子育て支援サービスの充実
主な課題	ニーズに応じた子育て支援サービスの受け皿の整備
目標	地域の子育てニーズに応じ、幼児期の教育・保育の供給量を適正に確保し、子育て支援事業の充実を図ります。
評価点	3.0

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
計画に基づいた各種サービスの提供体制の確保 (第5章の量の見込み・確保方策に基づく)	●ニーズに応じた各種サービス供給量の確保 ・教育・保育の供給量を適正に確保することで、待機児童(10月1日時点)が発生することなく、必要な教育・保育を提供することができた。 ・ニーズの高い一時預かり保育、待機児童が発生している放課後児童健全事業について実施施設を増加した。 【一時預かり保育】 5施設追加 【放課後児童健全育成事業】 3クラブ追加 ・産後ケア事業については、妊娠32週以降の電子申請を可能とし、利用しやすい環境を整えた。また、令和7年8月より産後ケア事業訪問型(アウトリーチ型)を開始し、外出が困難な方も支援が受けられるような体制を整え、支援の充実に努めた。 【産後ケア事業利用者数】R7目標値:1,000人 R7実績値 2,178人 ・子育て支援センターについては、東こども園に併設している子育てひろば支援センターで土曜日開所を開始した。	-	-	-	-	B	3	引き続き保育需要の推移を注視し、公立保育所の統廃合による供給量の調整を行うとともに、ニーズの高い特別保育事業については受け皿を確保するなど、ニーズに応じた適正な保育の供給量の確保及び子育て支援の充実に努めていく。	こども政策課、 こども施設課、 こども支援課、 こども相談課

重点施策	9 個々の特性や取り巻く環境に応じた支援の充実
主な課題	●生まれ育った環境によって将来を左右されことなく、自分の思いを伝えることができ、未来を切り開いていけるような支援の必要性 ●こどもの発達段階や個々が持つ特性により必要となる支援の多様化
目標	全てのこどもたちが健やかに育つための環境を整えます。
評価点	3.2

主な取組	具体的取組	現状値 (R6)	目標値 (R11)	目標値 (R7)	実績 (R7)	評価	得点	今後の取組方針	担当課
5歳児よなごっこ健診や医療機関との連携によるこどもの特性の早期把握	●5歳児よなごっこ健診や医療機関との連携によるこどもの特性の早期把握 ・1次健診を5歳児のいる全世帯に実施した。把握率を上げるために通園施設とも連携を行った。 ・特性の心配がある児童を抽出し、相談会を行った。さらに医療的判断の必要性があるケースに対して、二次検診を実施し、早期の対応を行った。	-	-	-	-	B	3	・1次健診の取組によるこどもの把握率は例年以上となった。 ・相談会・二次健診の実施後のアンケートでは、非常に高い満足度を得たとの回答が多かった。 ・5歳児健診の二段階方式における国マニュアルが改定され、米子市も対応していく。二段階方式における、こどもの特性把握の方法を医療機関等と連携しながら、先進的に進めていくことを検討する。	こども相談課
児童発達支援センターあかしやを中心とした障がいのあるこどもへの支援の展開	●児童発達支援センターあかしやを中心とした障がいのあるこどもへの支援の展開 ・利用児童に対し、関係機関と連携しながら発達段階に応じた支援、家族支援等を実施した。 ・地域の保育所等を対象に研修会を開催する等、地域の障がい児支援の質を高める取組を行った。 ・インクルーシブ保育を推進するため、滞在型支援「発達支援保育サポーター事業」を公立保育施設を対象に試行的に実施した。	-	-	-	-	B	3	・令和8年度から滞在型支援「発達支援保育サポーター事業」を民間保育施設も含めた5園で実施する。事業の効果検証し、更なる拡充に努めていく。	こども相談課
ひとり親世帯等への学習支援(こども☆みらい塾)の運営	●こども☆みらい塾の運営 引き続き、元教員等で組織した団体に運営を委託し、実施した。 利用希望のあった親子との面談等により、子どもの特性や家庭環境を把握し、一人ひとりの子どもに合った学習の機会を提供した。 【実施回数】 130回 【登録児童数】 79名	-	-	-	-	B	4	・事業を利用するこども及びその保護者に対するアンケート結果では、子どもの72%、保護者の92%において学習意欲の向上を実感している。 ・また、事業に対する満足度について、子ども、保護者ともに9割を超えている状況に鑑みれば、学習支援としての効果に加え、安心できる居場所としての機能も十分に果たしているものと評価できる。 ・今後については、引き続き支援が必要な子どもの利用につなげられるよう、関係部署及び機関と連携していく。	こども政策課
	【成果指標】 こども☆みらい塾参加者・保護者アンケートにより”学習意欲向上”したと回答した割合	-	(親)95% (子)80%	(親)70% (子)70%	(親)91% (子)72%	A			
	【成果指標②】 生活保護世帯の子どものうち、高等学校への進学を希望する者の進学率	87.5%	100%	100%	100%	A		今後も、子ども本人の意向を最大限尊重できるよう、対象世帯の保護者及び子ども本人に対して丁寧な説明及び助言等を継続し、必要に応じて、こども☆みらい塾等の学習支援を行っている。	福祉課
こども食堂の普及の推進	●こども食堂等への支援<<再掲>> ・民間団体と連携し、県下一斉フードドライブへの参加やフードバンクポストの増設により、食材確保体制を拡充した。 ・食材の提供や広報活動の支援により、こどもやその保護者の交流の場となる子ども食堂等の円滑な活動に寄与した。 ・こども食堂関係者との意見交換会を通じて市の方針共有や要望把握を行い、現状分析と課題の明確化を図った。 【指標】食料提供実績	760kg	1,000kg	-	930kg	B	3	・引き続き、こども食堂等に対する広報活動及び食材確保の支援等を行う。 ・鳥取県や関係団体と連携して定期的に意見交換会を開催し、現状分析や課題の明確化に努める。	こども政策課
声を上げにくいこども・若者の気持ちを受け止める仕組みづくり	●24時間対応のオンラインチャット相談窓口の設置 よなごっこポータル内で「あなたのいばしょチャット相談」を創設し、24時間相談対応を可能とした。	-	-	-	-	B	3	利用者の反応は好意的なものが多い一方で、アクセス数114件に対し、相談者は45件にとどまった。引き続き相談窓口の周知に努めていく。	こども相談課
	【成果指標】 利用者アンケートの中で、好意的な意見が得られた割合 (『少し安心した』と回答した割合)	-	-	-	77.8%	B			